

# 組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

**工学部**

部局長名：

**菅 誠治**

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p> <p>新旧カリキュラムの円滑な実施と教育体制の円滑な移行を組織的に実施するための体制の整備          ・新しい工学部のカリキュラムの編成方針、人材育成方法を教員会議において構成員に周知徹底する。          ・前年度に蓄積したノウハウをもとに、with コロナにおける教育の質を担保しながら安全に授業を実施する。          ・旧工学部で実施してきた外部評価委員会を新たに環境社会基盤系の評価委員会の委員を加えて開催し、新しい工学部の教育理念・人材育成像について討議することにより、カリキュラムのブラッシュアップをはかる。          ・旧工学部で実施してきたピアレビューを継続実施し、授業方法・内容の相互理解と修正を行う。          ・例年通り授業評価アンケートを実施し、新・旧カリキュラムの授業評価アンケート結果の分析を行う。  <b>大学院のリカレント教育の推進</b>          ・岡山県の寄付講座を主軸とした、セキュリティとAIに関するリカレント教育を実施する。          ・リカレント教育におけるオンライン講義形式を強化し、新たな方向性を模索する。  <b>グローバル教育の推進</b>          ・with コロナの時代における海外研修・留学(とくに旧工学部時代に確立した海外短期研修(DIG)および海外短期留学(HUG)の可能性を探りつつ、オンラインを活用した新たなグローバル教育の方法を模索する。  <b>学生の活性化</b>          ・新工学部でも、学部長裁量経費により学生活動支援を実施する。  <b>入試について</b>          ・女子学生獲得のための入試選抜法と後期日程入試廃止後の入試方法に関して検討する。</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>新旧カリキュラムの円滑な実施と教育体制の円滑な移行を組織的に実施するための体制の整備          ・年度当初の教員会議(新工学部の全教員参加)において、新しい工学部の理念や人材育成に対する考え方を全構成員に周知した。          ・工学部(新工学部、旧工学部、旧環境理工学部)として対面で行うすべての講義、実験・実習、その他の行事について、BCSに基づく管理を行い、感染防止に努めつつ教育活動を行った。さらに、ハイフレックス型授業に対応すべく、関連研究科と連携して5つの講義室の設備改修を行った。          ・旧工学部で実施してきた外部評価委員会を新工学部でも開催し、新工学部の教育に対して、意見交換を行った。この際、環境社会基盤系が専門の新たな委員を加えたことにより、フル装備の工学部に対する様々なご指摘をいただくことができた。          ・FD委員会を中心に、旧工学部で実施してきたピアレビューを新工学部でも継続実施し、授業方法・内容の相互理解と修正を行った。また、例年通り授業評価アンケートを実施し、新・旧カリキュラムの授業評価アンケート結果の分析を行った。  <b>大学院のリカレント教育の推進</b>          ・岡山県寄付講座「おかもとIoT・AI・セキュリティ講座」にて県内技術者のIoT・AIのセキュアな活用の底上げを狙う社会人人材育成を目的とした履修証明プログラムを開発した。本プログラムは文部科学省の職業実践力育成プログラムに採択され、30名が受講し15名が修了した。  <b>グローバル教育の推進</b>          ・残念ながらリアルな海外研修・留学は行えなかったが、オーストラリア・クイーンズランド大学の学生と英語によるオンラインでの国際交流を実施した。また、マレーシアとの国際高大連携事業(さくらサイエンス)を同じくオンラインで実施した(学部学生および大学院生が参加)。  <b>学生の活性化</b>          ・学部長裁量経費により学生活動支援を実施した(学生フォーミュラ、ロボコン、ハッカーコンテスト)。  <b>入試について</b>          ・女子学生獲得のための入試選抜法方法について学務部等と討議を行った。また、バカロレア選抜についてもGDP教員と討議を行い、後期日程入試廃止後の入試方法に関して検討を行った。</p>
<p><b>②研究領域</b></p> <p>科研費          ・学部・系内での啓発・支援体制を充実させ、新規採択率向上を目指す。  <b>共同研究</b>          ・工学系教員の強みを生かしたグループでの共同研究体制やCypherと連携したAIやIoT関連の共同研究の立ち上げを模索する。          ・「岡山県 企業と大学との共同研究センター」との連携により地元企業との共同研究を模索する。  <b>受託研究</b>          ・岡山大学の重点研究分野をベースに、工学部内の関連研究者研究活動の見える化を継続的に推進するとともに、グループによる大型資金獲得への提案を支援する。          ・URAと協力して「共創の場形成支援プログラム」申請を推進する。          ・工学部内の関連研究者の見える化を行い、新たな研究グループ形成を支援する。  <b>Q1 ジャーナル</b>          ・個々の教員のアクティビティ向上のため、研究活動の調査・奨励・支援体制の構築を模索する。  <b>国際共著論文</b>          ・若手研究員の海外研究者との交流支援を行い、共同研究への進展や継続的な研究交流の実現を目指す。</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>科研費          ・学部・系内での啓発活動を行った。  <b>共同研究・受託研究</b>          ・共同研究費、受託研究費、寄付金のすべての項目について昨年度と比べて増加した。          ・「岡山県企業と大学との共同研究センター」との連携により地元企業との共同研究を模索した。          ・自然科学研究科長・理学部長等と討議を行い、工学部内の関連研究者の見える化を行い、大型資金獲得を目指して新たな研究グループ形成を現在模索している。  <b>Q1 ジャーナル</b>          ・個々の教員のアクティビティ向上のため、研究活動の調査を行った。  <b>国際共著論文</b>          ・コロナ禍の中で、アクティビティは十分とは言えなかったが、次年度に向けて、共同研究や若手研究者の支援を検討した。</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p> <p>地域社会との連携、社会貢献について          ・新型コロナに関する研究について:工学部としてできることは最優先で積極的に対応する。          ・創造工学センターを中心とした小学生、中学生対象の出前実験や出前講義を行うことにより、SDGsに貢献する。          ・公開講座を継続実施する。  <b>国際交流・協力について</b>          ・コロナ禍および国際状況を慎重に考慮しつつ、安全と安心を最優先として下記4項目の実施を検討する。          ・マレーシアとのオンライン国際子ども実験教室(創造工学センターが中心、一宮高校と連携)          ・ミャンマーとの交流(関連他大学(六大学)とともに推進)          ・中国赴日留学生教育の実施          ・さくらサイエンスプログラムの提案</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>地域社会との連携、社会貢献について          ・コロナ禍の中、対面での活動はできなかったが、創造工学センターを中心として小学生対象のオンラインでの実験教室を行った。          ・公開講座をオンラインで実施した(化学生命系、生命工学を中心として)。  <b>国際交流・協力について</b>          ・コロナ禍で非常に難しい状況であったが、下記2項目の実施をした。          ・マレーシアとのオンラインでの国際高大連携事業(さくらサイエンス採択課題)を創造工学センターを中心に実施した(一宮高校とも連携)          ・中国赴日留学生教育をオンラインで実施した(工学系教員6名が参加)。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p> <p>新工学部のスムーズな船出に向けて          ・統合した2つの学部の融合と相互理解を深めるため、教員研修を行う。          ・会議の数を減らすために各会議体における議題の整理を行う。          ・受験者の人数・質の向上に向けて広報活動を強化する。          ・老朽化した教育環境の整備とweb授業のためのインフラ整備について検討する。  <b>複合施設(津島北)について</b>          ・本部や同窓会と密に連携して、大きな講義室を含む新しい複合施設の建設を推進する。          小規模施設の集約化と統合について          ・7号館および8号館の廃止と集約化について引き続き議論を行い、概算要求に向けて準備を進める。  <b>法令順守の徹底について</b>          ・各種研修会(オンラインも含む)の受講率向上に向け、啓蒙活動を推進する。  <b>人事について</b>          ・女性教員獲得に向けて、女性限定公募等について準備を進める。</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>新工学部のスムーズな船出          ・教員会議を開催し、統合した2つの学部の融合と相互理解を深めた。対外的には、「新工学部発足記念シンポジウム」(9月、ハイブリッド)を開催した。          ・新工学部では代議員会議を中心とした運営を行い、学部長室→代議員会議→系の順に情報伝達を行うシステムを作ることにより、会議の数を減らした。教授会は必要に応じて開催することとした。          ・受験者の人数・質の向上に向けて広報活動を行った。具体的には、受験生の志願大学が固まる12月から1月に工学部独自のオンライン説明会を計4回行った(近藤UAAとの連携により、県内外の有力高校へ案内を発信)。          ・ハイフレックス型授業に対応すべく、関連研究科と連携して、5つの講義室の設備改修を行った(上述)。          ・建築系教育プログラムのための製図室の設置に着手した。  <b>複合施設(津島北、共育共創コモンズ)について</b>          ・共育共創コモンズが着工した。岡山大学新工学部設立記念「隈研吾特別招聘教授講演会」を開催し、本部や同窓会と密に連携して、寄付を募った(継続中)。  <b>小規模施設の集約化と統合について</b>          ・R3補正予算にて「実験研究棟(工学系)」の整備が認められたので、鋭意準備を進めている。  <b>法令順守の徹底について</b>          ・各種研修会(オンラインも含む)を行った。  <b>人事について</b>          ・女性教員獲得に向けて、女性限定公募を行い採用に至った。</p>